

貨客混載で描く 未来の姿



1. 物流会社

宅配会社は夕方までに受け付けた荷物を一旦物流施設に集め、夜仕分けし夜中にトラックで運びます。行きは荷物を積み、帰りは空ということもあります。

ネット通販の荷物については夜までに受けた注文を朝から準備し昼間余裕のある時間帯に貨客混載で最寄駅まで運びます。帰り荷の心配は不要です。



2. 消費者

昼間は不在で荷物を受け取ることが出来ないことがあります。

仕事や学校帰りに最寄駅やお店で受け取ることも出来ます。



3. 生産者

少量の農作物や加工食品などは輸送費が割高になりがちです。

鉄道やバスの空スペース利用で早く安く消費地へ届けられます。



4. 中心市街地

道路整備と大型店の郊外立地で中心市街地は寂れがちです。

荷物收受や産地直送販売のため、人や物、賑わいが戻ります。



5. 公共交通機関

地方では鉄道や路線バスの廃止、都市部でも平日昼間の路線バスの数が減り大きな病院へ行かれず困る人が出ています。

荷物も運ぶことで鉄道や路線バスを維持できたり、便数が増え、自動車の運転ができなくても生活できるようになります。



6. バリアフリー

旅客施設のバリアフリー化は1日あたりの利用者数3000人以上で進められています。

台車と車椅子やベビーカーに必要な設備は共通しており、バリアフリーが進みます。



7. 地球温暖化

環状道路を整備しても混雑時旅行速度は低下し、地球温暖化が進みます。

鉄道は営業用貨物自動車と比べ1tの荷物を1km運ぶのに排出する二酸化炭素は1/11です。

